

慈眼寺たより

第9号
平成22年12月
春日井市下市場町
「慈眼寺」
電話 81-6801
編集 伊藤秀文

☆長寿の秘訣☆

八十八歳 櫻井尚

編集委員の秀文さんから、何でもいいから寄稿してくれと頼まれ、和尚からは「長寿の秘訣」がいいと言われ、恐縮しながら書くことにしました。秘訣とは結局「運」以外にはないと思います。

私も昭和一八年一二月にお宮の前で、皆さんの歓呼の声に送られて、関東軍の国境守備隊の新兵として入隊。零下四〇度近い極寒の中、馬の餌の豆かすを食べて飢えを凌ぎ耐え抜いてきました。最後まで部隊にいた人は捕虜となってシベリアに連れて行かれ、命を落としたり強制労働させられたりでしたが、強運の私は翌年の九月一日付けで、内地へ転勤になりました。その頃の関東軍は、予備兵が主で、武器なども南方の戦線に送られて、留守番の将兵達

は、すきつ腹を抱え戦車壕掘りや陣地偽装などをさせられておりました。私達の部隊の居たところは黒河の町で、アムール河の対岸は、ロシアのプラゴエチェンス。冬は極寒、夏は猛暑で倒れるものもいたほどです。

まさしく軍隊は「運隊」だと思います。あの、黄門様の西川晃やゲゲゲの水木しげるさんなども軍隊の同年兵だが、運よく帰国されました。終戦の日に片道切符で出撃した親友もいたが、まったく運、不運というか・・・。長寿の秘訣は運とともに心の持ち方、考え方が大切だと思っています。鶴は千年、亀は万年といいますが、私たち人間は、どうあがいても百年、バタバタしても仕方がない。

「顔笑い腹煮えくりて 胃潰瘍」と笑ってすごして降りましたが、昭和六二年、なんとなく胃がおかしい。癌センターで細

胞の検査をしてもらったら、癌細胞が見つかりました。すぐに取ってくれと頼み即入院。胃の四分の三を切除、閻魔様の前まで行きましたが氏名が答えられず追い返され、それ以来胃のポリープや直腸の切除を繰り返す始末です。また、平成二一年からは、名大病院で膀胱癌を切ること三回。口の悪い友曰く「切っても切っても死なない奴」。お医者さんは切ると危ない奴はご存知なんです。さらに年末になって肺にまで癌細胞が見つかりました。ついに取りってくれと頼んだが、外科の先生は「手術はできますが、酸素ボンベのお世話になります」とのたまう。そんなものを引っ張ってはゴルフもできないので困る。では、抗癌剤は？と薦められたが、頭が禿げるから嫌だと抗弁、それならと放射線科へ送られた。そこで准教授の先生に「肺癌、右鎖骨上リンパ節肥大」で、ノドの近くのので型を作って治療部位は頸部で、放射線を当てるため二十五回通院していただきますといわれた。早期発見、早期治療がモットー

(次ページへ続く)

《青柳歌壇・俳壇》

睡蓮の

花の紫 方円に

中日なら

和田だる岩瀬 秋の雷

伊藤清雄

覗き見に

蓮に隠れた めだかかな

めだかでも

主人の気配 感じおり

秀

漸くに

庭木の剪定 やり終えて

深まる秋に 心安らぐ

ねぎかぶら

葱蕪

大根白菜 育ちよし

狭い畑で 心耕す

今井正

雨を待つ

玉葱の苗 植え終えて

軒下に

羽膨らます 冬雀

貴美子

の私に適した治療かと思いい通院しています。

天寿を全うするためにも、プラス思考で何事にもクヨクヨせず、ナントカナルサくらいのが持ちこたえてやっています。ストレスが健康に一番悪いそうです。東大病院の中川先生は「癌はP P K即ちピンピンコロリの病気だと言えるでしょう」と言い、菅原文太さんも「立ちションベンが出来ないようじゃ嫌だ!」と膀胱全摘以外の道を選んで、今でも元氣いっぱいビールのCMに出ているほどです。

「而今」は世界最高齢だった泉重千代さんに倣い、焼酎をチビチビ頂きながらP P Kで黄泉に行けるのを願いつつ、ゴルフにも連れて行って貰えるよう頼んでいます。欲張り爺と笑われるかも知れませんが、「笑うのは健康にもよく、また病を治すのだそうです。笑ってください。」



筆者近影

☆ 仏像考 ☆

伊藤秀文

我が国には、仏像とよべる偶像は何万体现在するのだろうか。おそらく何千万という数であらうかと想像します。如来様、菩薩様、明王様、そのほか天上界にあって仏、仏法を護る神々のすべてを仏像とよんでいます。紙に書いた絵も含まれます。仏教を信仰する人たちによって造られ、信仰の対象として礼拝され続けて現在に至っていることは間違いないと思います。

私達のお寺にも、須弥壇の上方中央に観世音菩薩様、右側に不動明王様、左側には多聞天様と三対の仏像が、檀家の皆様の家内安全を見守っていただいております。

日本一大きな仏像は、東大寺の大仏様です。今、私達がお参りする大仏様は、江戸時代元禄年間に、四年の歳月をかけてほとんど新しく建立されたものです。

人間の、仏様への信仰は感性の世界であって理屈ではないと思います。また、思いと力は

物差しでは測れないような気がします。

外国の話になりますが、孫悟空でお馴染みの三蔵法師玄奘が中国からシルクロードを歩いてインドに入り、経典を持ち帰る道中、バーミヤンで見たという石仏は、思想の違いからアルカイダに爆破されてしまいました。もったいないことです。テレビ番組の「開運何でも鑑定団」で古い仏像が何百万、何千万円とかの評価を受けています。千年も前、電気も道具もない時代に苦勞して作った人たちがあの世で心を痛めているでしょう。

終わりに夢窓国師様の話をします。若いころは天台真言を学び後に禅宗に移りました。後醍醐天皇から国師号を贈られ、全国を回って禅宗を広め、多くの寺院を開き、名園を配し木彫りの仏像を沢山残しました。多治見市の虎溪山永保寺の庭園は、国師の作品の中でも全国的な名園にあげられています。

ただ、一番多くの仏像を作った人は、江戸初期に鉈彫り仏を造った円空さんだそうです。

平成二十三年年度年忌表

来年の年忌は次のとおりです。お早めにお申し込みください。

年忌	逝去年
一周忌	平成二十二年
三回忌	平成二十一年
七回忌	平成十七年
十三回忌	平成十一年
十七回忌	平成七年
二十三回忌	平成一年
二十七回忌	昭和六〇年
三十三回忌	昭和五十四年
三十七回忌	昭和五〇年
四十三回忌	昭和四十四年
四十七回忌	昭和四〇年
五〇回忌	昭和三十七年

各個別の年忌はホームページでも見られます。ご利用ください。

行事予定

- 二月十一日 大般若会
正午から御詠歌奉詠
午後一時から法要、続いて
法話の会があります。
- 二月十五日 涅槃会
十時から法要
- 四月八日 灌仏会
十時から法要
甘茶を戴いてください。
- 八月十八日 お施餓鬼
受付は七月一日からです。
柵経は八月十日くらいからです。
原則は今年と同じです。お盆前に
各戸別のご案内をお送りします。

★跡継ぎということ ☆

住職 春日井浩道

最近、考えさせられる問題にお墓の跡継ぎというのがあります。自分の親が亡くなり、立派なお墓を作りました。自分の連れ合いも亡くなり、そのお墓に入れました。さて今度は自分の番だと思ったとたんに愕然としてしまいます。さてこのお墓は、誰が面倒を看てくれるのだろうと。一人息子は大阪で家を買ってしまいました。しかも孫は女の子ばかり。娘のほうは近くに嫁いだが、そちらも長男の嫁になっています。これは典型的な例ですが多かれ少なかれ似たようなケースはいっぱいあります。というより殆どのお宅がそんな問題を抱えているのではないのでしょうか。

以前、お墓や仏壇は、家産とともに親から子へ、子から孫へと受け継がれるべきものでした。そういう気持ちの反映として、お墓の石塔には「○○家先祖代々之墓」と刻まれることが多いです。ところがその承継がはなはだ心細くなってきたのです。なぜ、そうなっ

てしまったのでしょうか。考えてみれば、お墓や仏壇は家督のシンボルだったのでしょう。典型的には日光東照宮は徳川家と、伊勢神宮は皇室と切っても切れない関係にあるのです。家督としての受け継ぎがなされなくなると、均等相続の制度となつては、跡取りに残されたものは、親の介護とお墓だけということになってしまいます。

さらに根本的には殆どすべての人が、サラリーマンになつてしまったことでしょう。このため、生活の基盤が土地から会社へと変わってしまったのです。これで、人々は生まれ育った地域との縁が半分切れてしまいます。また外に出た子供達は親元の墓に入る事が出来ませんから、自分で墓を持つことになり、あちこちお墓だらけになっていきますが、その墓すら何時まで存続できるものか。近頃の住宅メーカーの設計耐用年数は三十年くらいだそうです。つまり子育てを終ればもう家は要らないのだと。あとは老人施設にでも入ればよろしい、ということなんでしょう

か。また子供達は、そんな古くなった家には住む可能性は小さいでしょう。むしろ住めないのです。息子の勤務地は親と同じとは限らないからです。そうだとすれば、いっそのことお墓や仏壇も、住宅と同じように一世代限りのものと考えてしまったほうがいいのかも。いや、そう考えざるを得ないのかもしれない。

しかし一方では家や墓は末代まで脈々と伝えられるべきものという気持ちもあります。特に私より年長の人たちにはそんな感情が強いようです。やはり、先祖伝来のなかに守られてここまで来られたという気持ちも強いのでしょうか。自分が創業者でない限り、先代から受け継いだ家督のおかげでやってこられたというのも事実でしょう。武士なんぞは、ご先祖様が関が原で勇敢に戦ってくれたおかげで、子々孫々安泰に暮らすことが出来た人もいました。また、汗水流して子孫のために農地を開いたご先祖様もいたでしょう。そんな努力のおかげで今の自分達が在る

のだと。それが祖先崇拜の元になつていと思われるのです。それでも中には、もらった物が時代に合わなくて投げ出してしまった人もいました。徳川慶喜さんやゴルバチョフさんなどもその仲間です。最近では専業農家も余程工夫しないと大変のようですし、薬屋、米屋、酒屋なども自由化などによつて廃業されるかたが多いです。要するに殆どの職種でその存続や承継が困難な時代になってきました。

そんなこれからの時代にお墓をどうして行くか、いや本当はお墓だけの問題ではなく、自分達の老後の問題にもなつてきます。天皇家でも跡継ぎ問題は頭が痛いようです。そういう意味では私も他人事ではありません。

来年もよい年に
なりますように

檀方総代	伊藤辰男
々	伊藤秀文
々	伊藤正廣
々	伊藤正
々	大野和義
々	大野悟
々	木村廣孝
住職	春日井浩道

お仏膳の受付をしています

平成二十三年のお仏膳の受付をしています。一年分、一膳あたり千五百円です。

お供えのお菓子はお下がりとしてお持ち帰りください。

★メダカの学校☆

最近のメダカの世界も錦鯉と同じで、赤、白、黄金など色彩豊かになりました。昔、五輪様の川に居た黒い本メダカは、本当に希少価値になりました。普通、体形は細長ですが、今では大ききこそ違い、丸いフグのようなメダカが流行です。孵化時の光の加減で作りに出されるもので、達磨メダカといえます。本堂前の睡蓮鉢にメダカを入れたところ、早朝烏がそれを狙って襲来。せっかくの睡蓮はズタズタにされ、メダカはほとんど食われてしまいました。そこで、夜にはネット被せることにしましたが、敵もさるもの。ネットをほどこいてまたやられてしまいました。結び目をきつくして対応。しばらくは鳥との知恵比べが続きます。



★菩提樹たより☆

毎年冬には枯れるが、春になるとまた芽を出して、年々すこしずつ大きくなっていった菩提樹は、今年は遂に芽を出しました。寒さで根までやられてしまったのでしよう。去年は二メートルくらいの高さまで行きましたので楽しみにしておりましたが、残念でした。同じような失敗はハイビスカスでも経験しておりました。かわいそうな事をしました。



お墓の管理について

下市場墓地の管理については、共用部分は管理委員会で見っていますが、それぞれの私用区画についてはその権利者の方に責任を持っていただくことになっております。中には草ぼうぼうの区画もあって周りの方の迷惑になっていきます。ぜひともご協力をお願いします。

また熟慮の上、墓地は不要だと考えられる方は、墓地の返却も出れますので、お申し出ください。今なら購入された金額をお返しすることが出来ます。墓地は個人的には売買できませんのでご承知おきください。

★編集後記☆

二十一世紀になって十年、平成になって二十二年が過ぎています。

世の中は慢性的な不況なのか、なかなか活気がありません。若い人たちも就職がままならず大変です。政権交代から一年過ぎましたが、余計に悪くなってきたのか。なにもかも八方塞ぎのような政権運営のようです。

まるで素人集団が勝手なことを言い合っているようで、大丈夫か心配になってきます。明治維新では素人衆の試行錯誤の連続でしたが、何とか四十年ほどで日本は世界の先進国の仲間入りを果たすことができました。しかしその間には多くの不平テロがあったり、いくつかの内乱もありました。そういう意味では有る程度は目をつぶらなければならぬのでしようが、心配ですね。

また、外には自分たちの体制がつぶれそうなので、頻りと他国にけんかを売ろうとする国があります。こちらも心配です。そんななかで、日本から二人のノーベル賞者が出たことはとてもいいニュースでした。資源も何も無い日本はそんなことでしか、立国できないかもしれない。よい未来が開けますように。

「慈眼寺たより」 第九号

平成二十二年十二月十三日

ホームページ

← <http://www.ma.ccnw.ne.jp/jigenji/>